

LECTURER PROFILE



国際教養学部

氏 名

藤井 得弘 准教授

Tokuhiro Fujii

研究分野

中国文学

プロフィール

北海道大学大学院専門研究員を経て2024年度より現職。北海道出身。本学では「中国文化論ゼミ」を担当。大学の公的なプログラムのもと、初習外国語（中国語）履修者を対象とした中華圏でのフィールドワークも実施。



模擬授業タイトル

シャーロック・ホームズ、中国を騒がす
——中国近代の探偵小説と文化交渉

20世紀初頭の中国では小説による民衆啓蒙論が起り、探偵小説が流行します。中国人がいかにして伝統的な観念と呼応させながら探偵や科学捜査について理解したのか、「文化交渉」の一例としてご紹介します。



PREVIEW!



1. 中国探偵小説前史—裁判説話と包公

◎名裁判官・包公（パオゴン）

・包拯。北宋（960-1127）のとき、仁宗皇帝の側近として

朝廷に仕えた人物。包龍圖とも称される。

・清廉潔白、鉄面無私。民衆からは敬意を込めて「包公」と呼ばれた。その物語は芝居や語りもの、小説などにより広く伝播。後に話は雪だるま式に増幅、能力も拡大。



YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

1

受験生へのMESSAGE

横浜は文化の越境や交渉というテーマが身近に感じられる都市です。国際的な視点からものを考えるうえで刺激のある場所でもあります。国境や分野の「枠」を越えて、活動や関心の領域を広げていってください。